

八王子市立南大沢中学校「平成19年度授業改善推進プラン」

【八王子市教育委員会教育目標】

「あふれる元気」 健康な心身・活力
 「かがやく心」 豊かな知性と感性・個性
 「仲間とともに」 協調性・社会性
 「はばたけ未来へ」 意欲・積極性の育成に向けた教育を推進する。

[教育目標]

・よく学び創造する生徒
 ・進んで協力し思いやりのある生徒
 ・健康で逞しい生徒

1 地域の実態

学校に対する期待と関心が高く、互いに協力的である。

2 地域・保護者の期待や願い
 教育に対する関心が高い。
 学力向上に対する期待が高い

3 期待される生徒像

自らの興味や関心を生かしながら、自分で設定した課題や目標に対し、意欲的に追求する

《本校の現状》

- ・ 学力向上への意欲は全体的に高い。
- ・ 基礎、基本を重視した取り組みにより、基本的な力は標準以上あると考えられる。
- ・ 思考を必要とする面や、応用力についてが課題となっている。自ら考え課題を見つけ、解決する力の育成がもっと必要である。

《本年度本校における学力向上のための重点方針》

- ・ 教科における固有の目標と学校全体との関連を図る。
- ・ 創造力や実践力をはぐくむ。
- ・ 主体的・創造的な学習の展開。
- ・ 課題解決学習、体験的な学習の実施。

(本年度の学力向上の具体策)

- ・ 毎朝10分間を5教科(国語・社会・数学・理科・英語)の授業の一部として活用し、学習内容の復習や反復練習を中心に行い、学力充実を図るとともに、引き続き1校時の授業を行うことで、落ち着いた一日の学習に向かう態度や習慣を身につけさせる。
- ・ 思考力、判断力、創造力を大切にする学習態度を身につける指導を行う。
- ・ 市学力定着度調査、都学力向上を図るための調査、並びに学校独自で実施する生徒による授業評価等の結果を踏まえ授業改善推進プランを作成、これに基づき、積極的に自ら学ぶ意欲を身につけることができる学習指導法の工夫改善を行う。
- ・ コンピュータや視聴覚教材を活用し、学習効果を上げる指導法の開発を進める。
- ・ 数学、英語の少人数指導、社会のITでは、個別指導やグループ別編成など多様な学習形態を工夫し、学習の定着を図る。
- ・ 選択教科については、生徒の興味、関心に応える内容を取り入れ、学習意欲を高めることに目標を置き、教科、コースをきめ細かく設定する。
- ・ 市研究協力校としての取組(特別支援教育)を通し、一人一人の学習状況に応じた指導を充実させる。

《学力向上の成果の検証及びその評価方法》

授業改善推進プランに基づき、指導法の工夫改善や選択教科、少人数指導、IT等によって、個に応じた指導の充実を図り、授業時数を確保して、一人一人の基礎学力を高める。

市学力定着度調査、都学力向上を図るための調査、並びに学校独自で実施する生徒による授業評価等の結果を踏まえ、積極的に自ら学ぶ意欲を身につけることができる学習指導法の工夫改善を行う。

教科等の現状と課題及び授業の改善点

教科等	現状と課題	改善策	教科等	現状と課題	改善策
国語	全体的に話すこと、書くことに慣れているようだが、家庭学習をあまりしていないようで、テストの得点は伸びない。また記述問題に弱い。	テストの問題にあった解答の書き方を指導する。何回も文章を読ませ読解力を身につけさせるようにする。また家庭学習の方法を指導する。	美術	発想や構想の段階で十分に時間をかけずに、既存のキャラクターなどを安易に引用してしまう。アイディアスケッチが不十分なまま製作に取り組む傾向がある。またアイディアに対して構想が不十分で創意工夫及び独創性が乏しい傾向にある。平面的な表現より立体的な表現に対して興味関心を示す。	発想や構想の段階で、十分に時間を設定し出来るだけ多くのアイディアスケッチに取り組みさせる。既存の作品の引用の問題点と、独創的な発想や表現の価値について理解させ、安易な発想に陥らないように促す。またアイディアスケッチをもとにしっかりと構想を練らせ、より創造的で魅力的な作品製作を促すなど、完成のイメージ作りの具体的な手だてとする。題材を十分に吟味し、平面的な題材に偏らないよう立体的な題材にも取り組みさせるなど、達成感を味わわせるための工夫に努める。
社会	生徒は概ね積極的に授業に取り組んでいる。しかし低学力の生徒が数人いる。	授業にゲームを取り入れるなど意欲関心を高める工夫を以前より行っているが、尚一層工夫していく。	技術・家庭	補助教材の工夫、生徒自己が発揮できる工夫、自己評価と相互評価の工夫。自分なりの工夫を活かして、生活を営む能力の育成。学習したことを生活の場で活用する能力の育成。手や体を使って実習や体験したりする活動により生徒に習得させる。	授業への取り組み状況と、評価の際にベースとなる生活を工夫し創造する能力の充実に重点を置き、指導の工夫・授業の内容の改善を行う。知識だけの習得にならないように学習したことを生活の場で活用する能力を育てる指導を行う。実習や体験をさせることにより生徒に習得させる。ものづくりの基本的な工具の取り扱い方と安全について指導する。
数学	正負の数と移項の学習において、手順をおさえた移項は出来るが、代数和が出来ずにつまずくものや四則混合がまだのものがある。	練習をもっと実施する。授業の最初に四問小テストを行い、その場で答え合わせをする手法を取り入れる。	保健体育	全体的には積極的に体を動かし意欲的に授業に取り組んでいる。但し個々の体力差は大きく個に応じた指導の必要性がある。	個々の能力をしっかりと把握し、グループ別の指導を用いたり、子ども達同士の教え合いの場を設定する。
理科	授業にはよく取り組んでいる。観点別に定着度をみると、実験・観察の技能・表現と知識・理解については概ね良いが、科学的思考については不十分といえる。	実験や観察についてのレポート作成を数多く行い、科学的な思考力と表現力を伸ばす。また、日常より、記述式の問題を多く取り入れ、論理的に考え、表現する習慣づけを行う。	外国語	全体的に学習に対する意欲は高いが、基本的な知識の定着は徹底できていない。	小テストを行い、基礎的な力を高める。表現活動を取り入れ、繰り返し練習する。
音楽	音楽に親しみを持たせるため、生徒が興味を抱くような合唱曲を用いて、表現活動を行う。	合唱では、初めての三部合唱に取り組むため、各パートに分かれ、パート練習を繰り返し行い、音程を取れるようにする。合唱をする楽しさを味わわせる。	総合的な学習の時間	年間を通し「国際理解」をテーマに課題を設定し調べ発表する力をつけている。自ら積極的に課題を見つけまとめる力が今後の課題である。	「留学生の話を聞く」機会や、「大使館訪問」等の体験を通し興味を広げ、課題に対する考え方や見方をさらに深め発展させる。

その他(道徳・特別活動等)

道徳・学活・行事などを通して、「人を大切にする」ということを指導している。現状では友達と協力して良いものをつくりあげようとしたり、学年集会時に人の話を静かに聞こうとする意識はある。しかし日々の生活の中での心ない言葉や態度が気になる場面もある。道徳教材や行事を通して「人を大切にする」ことを育てていきたい。

教科等の現状と課題及び授業の改善点

教科等	現状と課題	改善策	教科等	現状と課題	改善策
国語	授業・家庭学習にまじめに取り組む生徒が多い。 しかし学習に取り組むことを投げ出しかけている生徒も数名いる。	国語学習の基礎である読書指導を進める。 高学力の生徒に答えうる内容の授業をすすめる。 低学力の生徒が興味を持てる授業を工夫する。 漢字習得の補充授業をする。 結果だけでなく過程を評価して励ます。	美術	発想や構想の段階で十分に時間をかけずに、既存のキャラクターなどを安易に引用してしまう。アイデアスケッチが不十分なまま製作に取り組む傾向がある。またアイデアに対して構想が不十分で創意工夫及び独創性が乏しい傾向にある。平面的な表現より立体的な表現に対して興味関心を示す。	発想や構想の段階で、十分に時間を設定し出来るだけ多くのアイデアスケッチに取り組みさせる。既存の作品の引用の問題点と、独創的な発想や表現の価値について理解させ、安易な発想に陥らないように促す。またアイデアスケッチをもとにしっかりとした構想を練らせ、より創造的で魅力的な作品製作を促すなど、完成のイメージ作りの具体的な手だてとする。題材を十分に吟味し、平面的な題材に偏らないよう立体的な題材にも取り組みさせるなど、達成感を味わわせるための工夫に努める。
社会	社会的な事象に対する関心意欲が高いが、基礎的な内容の定着と思考判断、表現する力を一層伸ばしていきたい。	パワーアップタイムの活用と、ノート指導、レポート作成を通して基礎的な内容の定着をはかるとともに、自分で考え、表現する力を付けさせる。 具体的な事象や実生活の体験と照らし合わせながら考える取り組みを増やしていく。	技術・家庭	補助教材の工夫、生徒自己が発揮できる工夫、自己評価と相互評価の工夫。 自分なりの工夫を活かして、生活を営む能力の育成。 学習したことを生活の場で活用する能力の育成。 多くの実習と体験活動により生徒に習得させる。マナーやモラルの意識を育成する。	授業への取り組み状況と、評価の際にベースとなる生活を工夫し創造する能力の充実に重点を置き、指導の工夫・授業の内容の改善を行う。知識だけの習得にならないように学習したことを生活の場で活用する能力を育てる指導を行う。 情報の処理方法だけでなく、モラルについても指導する。
数学	文字や等式の扱いは出来るようになったが、文章で問われると間違いが多くなる。読解力をつけさせたい。 少人数授業においては、進度を調整することが難しい。	数式のみ板書から、数学独特の言葉や言い回しをノートにも書かせ、気をつけるように伝える。 プリントで要所要所を確認する。	保健体育	意欲的に学習できる。基礎基本の動作は定着してきている。学習の課題を見つけ、解決する能力を育成する。	運動の楽しさ、喜びを味わうため、基礎基本を大切に、実践的技術の向上を目指す。 保健についてより健康的な生活を送れるよう、体験的な授業を目指す。 指導内容を厳選し、指導計画の工夫と改善をする。
理科	他の観点に比べ、科学的思考と実験・観察の技能・表現については明らかに不十分な結果であった。	実験や観察についてのレポート作成を数多く行い、科学的な思考力と表現力を伸ばす。また、日常より、記述式の問題を多く取り入れ、論理的に考え、表現する習慣づけを行う。実験・観察の技能に関してはパフォーマンステストを活用する。	外国語	読む力は持っており、英文を理解することは出来る。一方話す、書く力については弱く、積極的に表現する姿勢にも欠ける。	少人数制を活かし、個別の表現活動の機会を増やす。必要に応じ、スピーチやスキット、インタビューテストなどを行い表現力をつけさせる。また、日記や英作文の課題を取り入れる。
音楽	自ら進んで音楽表現が出来る力を高めるため、より感動を味わえるような合唱曲に取り組む。	パートリーダーが各パートをまとめ、自らパート練習を行い、音程や感情が豊かに表現できるよう力を育てる。今まで以上の喜びや感動を味わわせる。	総合的な学習の時間	さまざまな体験学習に積極的に参加し、学んだことを表現する力をつけている。自ら課題をみつけ、解決する力をつけることが課題である。	「ものを作る、働く」というテーマにあわせて、出来るだけ多くの方のお話を聞く機会を設け、自らの体験とあわせて考え、発表する取り組みを増やしていく。

その他(道徳・特別活動等)

読み物資料を活用し、自らの体験と考え合わせながら、まわりを思いやり、自律して生活する力を育てる。
生徒が主体的に活動し、問題を解決しながら行事に取り組んでいく。

教科等の現状と課題及び授業の改善点

教科等	現状と課題	改善策	教科等	現状と課題	改善策
国語	提出物等、意欲・関心は2年時より高まった。漢字小テストの取り組みもよくなった。今後は文章作文力、発表力、読解力においての実力を高める必要がある。	・提出物、漢字小テストは今まで通り取り組む。 ・作文も同様テストで出題し、スピーチも学期一回実施する。 ・読解については長文問題に取り組みさせる予定。	美術	発想や構想の段階で十分に時間をかけずに、既存のキャラクターなどを安易に引用してしまう。アイデアスケッチが不十分なまま製作に取り組む傾向がある。またアイデアに対して構想が不十分で創意工夫及び独創性が乏しい傾向にある。平面的な表現より立体的な表現に対して興味関心を示す。	発想や構想の段階で、十分に時間を設定し出来るだけ多くのアイデアスケッチに取り組みさせる。既存の作品の引用の問題点と、独創的な発想や表現の価値について理解させ、安易な発想に陥らないように促す。またアイデアスケッチをもとにしっかりと構想を練らせ、より創造的で魅力的な作品製作を促すなど、完成のイメージの具体的な手だてとする。題材を十分に吟味し、平面的な題材に偏らないよう立体的な題材にも取り組みさせるなど、達成感を味わわせるための工夫に努める。
社会	基本的な語句が定着していない。社会的事象を自らの生活と結びつけて考えられていない。	定期的にノートチェックや確認テストを行い、基本事項を確認する。 より身近な例を挙げ、体験的な学習を増やし、生徒の興味関心を引きつける。	技術・家庭	補助教材の工夫、生徒自己が発揮できる工夫、自己評価と相互評価の工夫。 自分なりの工夫を活かして、生活を営む能力の育成。 学習したことを生活の場で活用する能力の育成。 手や体を使って実習や体験したりする活動により生徒に習得させる。	授業への取り組み状況と、評価の際にベースとなる生活を工夫し創造する能力の充実に重点を置き、指導の工夫・授業の内容の改善を行う。知識だけの習得にならないように学習したことを生活の場で活用する能力を育てる指導を行う。実習や体験をさせることにより生徒に習得させる。 今まで学んだ知識を総合して、作品を製作する指導をする。
数学	学習内容の定着に個人差がみられる。理解するのに時間がかかる生徒に対しては基礎基本の定着を目指す。 理解が早い生徒に対しては副教材により、発展的な問題の定着を目指す。	・授業内で理解しやすい問題を取り入れ「できた」という実感を持たせる。 ・パワーアップタイムで練習問題を反復する。 ・個別に支援する。	保健体育	意欲的に学習できる。基礎基本の動作は定着してきている。学習の課題を見つけ、解決する能力を育成する。	運動の楽しさ、喜びを味わうため、授業に主体的に関われる能力を高める。 また基礎基本を大切にしながら実践的技術の向上を目指す。 保健分野について、ライフスタイルに合わせてより健康的な生活を送れるよう、体験的な授業を目指す。
理科	意欲関心態度や知識理解は十分に満足できるが、実験観察の技能の一部と科学的思考については不十分である。	実験観察を中心にレポートに取り組みさせる中で、また通常の授業においても論述を増やすなど、科学的な思考を高める。	外国語	3人の教員による少人数授業を行っている。目が行き届くので落ち着いた状況だが、学力の面では少人数の効果が十分に出ているとは言えない。	3人の英語科教員で研修と情報交換を重ね、少人数によるより効果的な授業を模索する。具体的には一人一人の生徒に、より多くのドリル機会を与え、活動を通して英語運用能力を高める。
音楽	幅広いジャンルの音楽に興味を持たせ、積極的に表現活動を行い、音楽を愛好する心情を育てる。	混声四部合唱の重厚なハーモニーの響きを実感しながら合唱できるよう、意欲・技能を高めていく。器楽ではギターアンサンブルに取り組み、自ら演奏する楽しさを味わわせる。	総合的な学習の時間	1～3学年のテーマに即した指導の上で、特に体験学習の学習環境(受け入れ先事業所の選定等)の設定が年度を重ねるごとに困難になっている。調べ学習・体験発表の力(学級・学年全体の場)が不足気味である。	各学年のテーマに即した学習内容を厳選し、個々の生徒の実態に応じた指導をする。事前事後の調べ学習や発表等を通して生涯にわたる自己表現の能力や学習への意欲を持たせる。小中学校の連携を強め、生徒の主体的な学習態度を育成する。
その他(道徳・特別活動等) ・道徳・・・体験活動を重視し、自尊感情を育てるとともに他者を重んじながらよりよく生きようとする意欲を育てる。 ・特別活動・・・行事への意欲的な取り組みを通して社会性・協調性・協力性を培う。					